

長年培った団結力で
高齢者の外出支援に取り組む

鞍掛台自治会



加入に関するお問い合わせ 町田市町内会・自治会連合会 042-722-4262

今、町内会・自治会の存在意義が見直されている。特に地震や水害などの大きな災害時には地域で助け合った事例が数多く報告されているが、町田市の町内会・自治会のなかでも、地域の課題に向き合い、独自の取り組みで生活の向上を図ろうとしている自治会がある。この区域に在住している世帯の約9割以上、330世帯が加入する成瀬の鞍掛台自治会だ。

1 960年代に分譲が進んだ鞍掛台。住民の高齢化が進むこのエリアは、車椅子も使えない急勾配の坂が多いうえにバス停までの距離もあり、高齢者を中心に買い物や通院など外出困難者の増加

が問題となっている。一人暮らしの高齢者も年々増えており、自治会では独自の見守りネットワークで対策を行ってきた経緯がある。そんな鞍掛台自治会が推し進めている打開策が『鞍掛台買物・外出支援プロジェクト』だ。まちだ〇ごと大作戦』のチャレンジにも認定され、2019年1月の運用を目指し準備を進めている。

実 は、このエリアには過去に新聞配達店が購読世帯を対象に独自に運営していた送迎サービスがあった。しかし、数年前にこのサービスが廃止され、利用者が不便を訴えていたのだ。そんな状況を受け、自治会も継続して対策を検

討していたが、自治会員へのアンケート調査で回答があった200世帯のうち、6割が外出支援を切望していることが分かり、本格的に計画を進めることになった。

具 体的には近隣の社会福祉事業者の送迎車両とドライバーを空き時間に利用させてもらい、不便を解消しようとするプランだ。2018年1月に近隣の社会福祉事業者や高齢者支援センター、あんしん相談室、社会福祉協議会を含めたプロジェクトチームを立ち上げ、月に1回のミーティングで計画を練ってきた。現在はルート確認やスケジュール調整、テスト走行など最終段階に入っている。

二 うした取り組みの原動力となっているのは、それまで培ってきた自治会の団結力にある。その中でも中心的な役割を担っているのが、ソフトボールクラブのメンバーたちだ。36年前から成瀬鞍掛スポーツ広場で毎週練習を続けてきた彼らは、同自治会だけでなく、近隣町内会と合同で行うイベントでも常にキーパーソンとして積極的に活動している。

会長の山岸さんは「会長は輪番制ですが、ソフトボールクラブを中心に、自治会は団結して地域の課題に向き合ってきました。お正月にはどんど焼きや防災訓練、桜のシーズンにはお花見を、夏には花火大会といった自治会の活動拠点として、スポーツ広場も地元住民が集う大切な場所となっています。このプロジェクトもうまく運用できるのか、周知はどうするのかなど、まだまだ取り組まなくてはならない部分がありますが、皆で団結して乗り越えていきたいと思っています」と抱負を語る。

自 分たちのまちは皆で守り、地域で支えていく。そういった自治の精神が自然と息づいているエリアなのだ。



A



B



C



D



E



F

A. 40年近く、毎週欠かさず練習を続けてきたソフトボールクラブ。実力はもちろん、連帯感も抜群に強い B. C. 防災訓練はどんど焼きと同日開催することで参加者増につながった D. 右から防災見守り支援隊の代表を務める海老澤さん、中村さん E. 会長の山岸さん F. 右からソフトボールクラブの代表を務める本間さんと寺口さん